

蝶

東條 純一 JH3AEF, 島本 正敬 JA3USA,

西 彰 JK3IYB, 中野 幸紀 JA3VWT

東條さん

2014年6月30日 14:57

今年は毛虫がとても多くて驚いていたのですが、今は蝶が大変多くと驚いています。従来のモンシロチョウは多いのですが、アゲハは少ないような気がします。その代わり、これまであまり見かけなかったと思われるオレンジ色の蝶を比較的頻繁に目にします。何かの変化でしょうか？温暖化と関係があるのかなあと考えたりしています。

73 de JA3USA

島本さん 皆さん こんばんは

2014年6月30日 22:44

島本さんの鋭い観察眼に敬服いたします。

おっしゃるとおり、赤い蝶が増えたという指摘はあたっています。奈良も大阪もその変化は同じと思います。

犯人はツマグロヒョウモンという蝶、その地域的多発生が原因だろうと僕は考えています。

食草はスミ科の草花、家庭ではハッソーやペコア等でも繁殖しています。これらの草花を介して流通し、局所的に多発生が連続しているのだと思います。もともと関西には普通の蝶でしたが、今のように多くはみかけませんでした。ツマグロヒョウモンの写真を添付いたします。この蝶に相違ありませんか？異議なしと認めます。

東條

(クラブのメーリングリストでの話題を記事にさせていただきました)



東條さん

2014年7月1日 10:11

お送り頂いた写真の蝶に相違ありません。特に毛虫の写真を見て驚きました。この春は毛虫がとても多く、それも皆と言って良いほど写真の毛虫でした。タワーのすぐ横に木々があるのですが、そこから移住したのか、タワー周辺にもこの毛虫が沢山いました。何十匹と踏み殺したのですが、こんな蝶になるのなら、そっとしておいてあげたらと後悔しています。仰るような草花はこの辺りの家々に多くあると思いますので、そのせいでしょうね。

73 de JA3USA



島本さん,東條先生,お二方とも自然の観察が鋭いですね。 2014年7月1日 10:27
蝶の種類が,今年はそんなに変わっているのですか。ゴルフに行ったときには樹木からぶら下がっている毛虫が,何時も見るのとは少し違うなどと思ってましたが,それが孵化して蝶になって成る程と分かりました。添付されている写真も素晴らしいです。飛翔している姿など,プロのカメラアイですね。
そういえば,もう今年も折り返しに入りましたが,まだ蝉の声を一声も聞いて居ません。例年なら,裏庭の木にわんさと上がってきて,朝食の頃には耳をふさく程やかましいのですが,それが未だです。これも異常なのでしょうか。
Akira NISHI 西 彰

東條先生,島本さん,みなさん,こんにちは。 2014年7月1日 11:24
仕事におわれてとっぴんしゃん,抜けたらどどこしよの中野です。蝶々が飛んでいる姿が写真になってる!と非常に驚いています。飛ぶ姿がカメラで撮れるなんて信じられないくらいです。ありがとうございました。
最初の1枚目の蝶々の羽が空に透けてみえている感じが素晴らしいです。でも,真っ黒の芋虫君はやっぱりちょっと怖い。三田の里もたくさんの蝶々が飛んでいます,今年は何によりウグイス君(さん?)の鳴き声が下手っぴなままです。例年,6月にも入ると上手になってくるはずなんですが,他にも見たことのないきれいな鳥が里(キャンパス)の地べたを歩いていたりします。今年の梅雨は変です。
中野幸紀

領空

東條 純一 JH3AEF

蝶類の多くは自分の縄張りを持ちます。蝶屋仲間の間では「テリトリーを張る」と表現していますがテリトリーの主は雄で、自分が育った樹木や、産卵する樹木のそれも頂付近を中心に数百メートルがテリトリーになります。

雌はそのような行動をとらず自由奔放に行動しています。雄のテリトリーを張る行動は勿論美人で生活力のある雌を迎えるためです。蝶の場合、美人？生活力？多産？いずれが一押しになるのでしょうか。

生物界の原則から考えると当然。。。でしょうね。

蝶の雌、雌だけに限りませんが、は非常に早熟？成長が早いと表現した方が正しいのかも知れませんが。蛹から羽化すると3~4時間は翅を乾燥するために初めは生まれ出た蛹の表面に、間もなく翅をだらしと下げたまま付近を歩きまわり5時間もしないうちに飛翔を始めます。当然、雄のテリトリーに立ち入れれば早速雄の猛アタックを受け大方は交尾に至ります。雄のアタックから交尾までは人も昆虫もさして変わりはないのですが、交尾が成立してからの蝶の世界は様子が一変も二変もします。

雌は交尾の状態のまま重たい雄の体を引き上げて安住の地探しに飛び立つのです。その間、雄は何の協力もせず、ただぶら下がっているだけのように見えます。図9~11参照

人の世でも似たような話は無きにしも非ずですが、交尾の状態のまま飛び回るカーチャントはやっぱり肝っ玉蝶カーチャントと呼ぶのでしょうか？

一方、テリトリーを張った雄はたとえ外敵がいなくても、しょっちゅう警戒監視飛行に飛び立ちしばらく見えなくなります。また、もとの樹の飛び立った所からあまり遠くない枝に帰還します。

彼らの探知能力には驚くべきものがあります。視覚、聴覚、嗅覚その他超音波？不勉強で正解はお答えできませんが強力な視覚が備わっていることは間違いないと思います。

僕が写真を撮る時に間違いなくアイコンタクトできる事があるのですから。色々な蝶があなたの行動を監視しながら飛んでいる、、、そんなことを想像すると実に不思議な世界に引き込まれますね。だって、犬や猫が相手なら当然のことなのですから、、

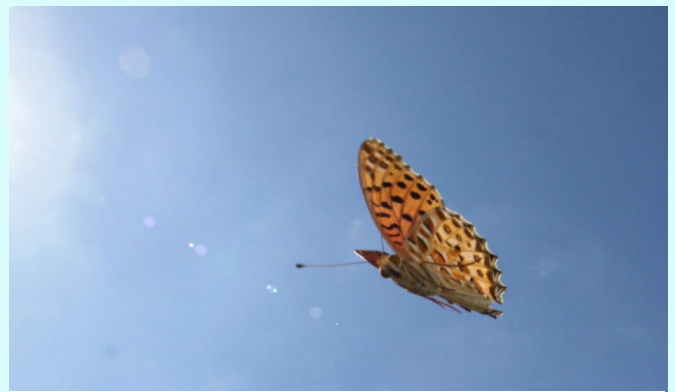
スクランブルは強烈です。とにかく外敵の発見の早いこと、人間の視覚などは相手になりません。そして一直線に外敵に到達し強烈な追尾を続けます。相手は手ごわい蜂や蛇、種類の違う蝶の仲間、相手の体の大きさには全く関係ないのが驚きです。

山鳩やヒヨドリなどの大きなものから小鳥まで、勿論テリトリーに侵入した同種の雄 = 恋敵は当然のことです。

不思議なことに蝶は何の攻撃武器も持たないのですがその突進してくる勢いで全ての外敵を追い散らし、悠然と元の天守にもどって来る姿には敬服させられます。それでは写真をご覧ください。



1. 前へ進め。「テリトリー」を警戒監視飛行。



2. かしら左
相手はカメラを構えているだけで敵ではないと判断。



3. 「上空を警戒せよ」上空に異変を感知。



4. 左上空に異音感知」



5. 「遙か上方にへりを発見、警戒せよ」



6. 「我、確認のため発進」

場面は変わって



7. 「可愛い彼女みつけ」



8. 「あれー、繋がっちゃった」



9. 「僕重いよー、大丈夫？」



10. 「まかして、あんたぐらいへっちゃらよ」

一端つながると雌が主導権をとり雄を引っ提げたまま移動し安住の地を探します。



11. 「わー素晴らしい、爽快、爽快」

160m帯のアンテナを作ってみました

J3AOP / 杉山 暁

先月号ではクランクアップタワーに簡便に設置できる160m帯のアンテナをシミュレーションしてみました。Fig.1は構造の簡略図。Fig.2はカウンターポイズをタワー1段目の上端(地上7m)から先端を地上高15mに向けて張ったときの特性でした。このモデルを目標にFig.3に白線で示すように約32mの軽量アンテナ線を張りました。

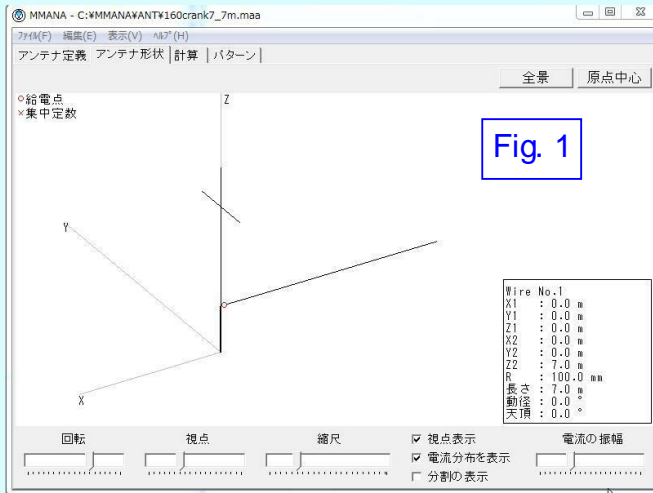


Fig. 1

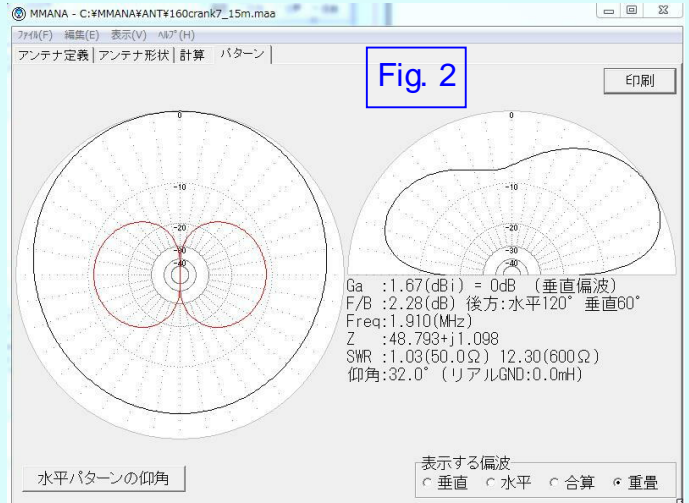


Fig. 2

アンテナ線の先端部は地上高3m程度しかありませんが、アンテナ線の中央部の下の地面は谷で10mあまり窪んでいますので、モデルに近いアンテナが出来たのではないかと考えています。給電点はクランクアップタワーの一段目の上端に設置されている作業台です。送受信機からの同軸ケーブルの外被を作業台に接続し、芯線はローディング・コイルを経て新しく張ったアンテナ線に接続します。ローディング・コイルは約10 μ Hで1,800kHzに同調しました。コイルにはタップを設けてリレーで切換えます。約5 μ Hで1,900kHzに同調します。クランクアップタワーにはSteppIRのDB36アンテナが取り付けられていますが、このアンテナの元素長をどのバンドに合わせるかによって160m帯のアンテナの共振周波数やインピーダンスが変わります。



Fig. 3

SteppIRの元素が長い17MHz帯や3.5MHz帯にすると、160m帯アンテナは同調周波数が上昇するという予想に反した現象が現れました。SteppIRの元素は巻き取るか、50MHz帯にセットして使用しています。Fig.4は調整の途中で得たSWRカーブの例です。比較的良好なSWRが得られる範囲も広く、調整もあまりクリティカルでなくて160m帯のアンテナが出来ました。6月21~22日のALL ASIA CWコンテストで使ってみました。この時期、160m帯のコンディションは良くありませんがUA0と1QSO出来ました。

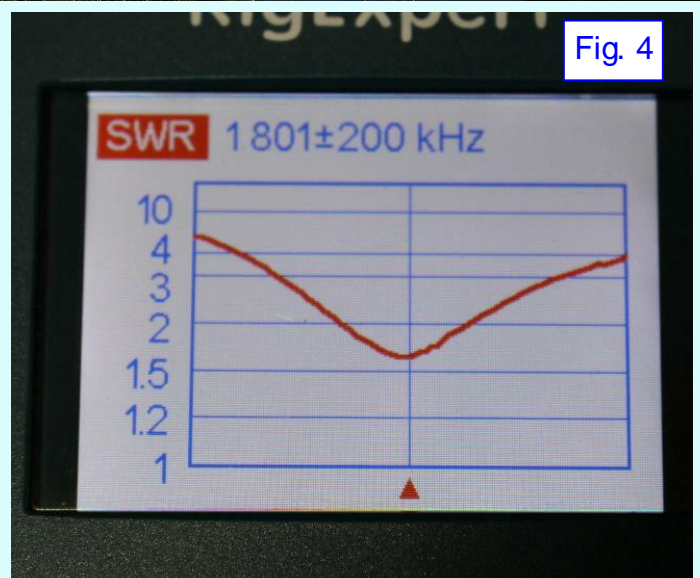


Fig. 4